

ただちに国会を解散して、国民の信を問え 応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年10月15日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

住み続けられるまちづくりをめざして 国保、介護・高齢者等福祉 二つの自治体調査開始

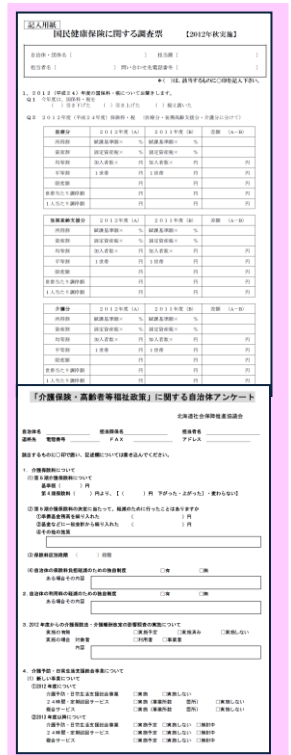
北海道社保協では、道内の市町村、広域連合に対して、国民健康保険と介護保険・高齢者等福祉政策についての二つの調査票を発送しました。住み続けられるまちづくりをすすめるため、道内の国保や介護・福祉の状況をつかみ、課題を明らかにするとともに、努力している取り組みを紹介し、今後、自治体との懇談や要請、国への働きかけにいかします（調査用紙は、道社保協のホームページにもアップしています）。

国民健康保険 減免制度、保険料値上げや差し押さえの実態、都道府県化など

国民健康保険について、今年度、多くの保険者で介護保険分、後期高齢者医療分をはじめ値上げが行われました。高すぎて保険料を滞納する方、高い窓口負担で受診を控える状況も広がっています。一方で、滞納者に対しての差し押さえも増えています。こうした中、住民の負担軽減のため、窓口負担や保険料の軽減の努力しているとりくみも進められています。政府の都道府県化の動きにより自治体の保険料にも影響が生まれています。

介護・高齢者等福祉 減免制度、孤立死などの実態や対策 地域包括ケアなど

介護保険料は今年度から新計画が実施され、多くの保険者で保険料も値上げされました。「保険料が高くて生活が大変」「利用料が高くて利用制限している」などの実態も広がっています。介護報酬の改定で、利用者、介護労働者、事業所にも被害が生まれています。こうした中、住民の負担軽減のため、努力しているとりくみも進められています。また、新設された日常生活支援事業について、今年度はほとんど行われませんでした。来年度以降の動きはどうか？ 広がる孤立死の実態やその予防のとりくみ、政府がすすめる地域包括ケアについても質問しています。



道立病院の事業改革プランについてのパブコメ、住民説明会はじまる 地域医療を守る道連絡会は、10月23日、道と懇談、要請します。

北海道は、来年度からの道立病院事業改革プランの素案を発表し、現在パブリックコメント（～11月9日）、道立病院所在地での住民説明会が行われています。
(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/dbs/soan-pabukome.htm>)

道は、来年度からの事業改革プランについての検討委員会報告書を受けて、該当自治体などと懇談し、素案をまとめました。現計画では、指定管理者制度の導入（多くの住民が反対しましたが盛り込まれた）が引き受ける事業者がなく断念しました。検討会の報告では、苫小牧病院（結核病院）の閉鎖や他の病院を独立行政法人化も提言しています。これに対して、自治体などから、「結核病院がなくなったらどこで治療するのか」「独法化でなぜ患者が3割も増えるのか」「不採算の医療を切り捨てるのか」などの不安や疑問が出されました。

今回の素案では「苫小牧病院の存廃を検討する」「経営改善の上に、経営形態を見直す」という表現になっています。

道立病院は25病院から現在9病院に減っています。地域住民の命と健康を守る地域医療を守る重要な役割があります。是非、パブリックコメントに応募しましょう。

地域医療を守る道連絡会は、10月23日（火）午後1時30分から、道と懇談し、要望書を提出します。医療計画などの検討状況や公的病院の病床削減、診療所化の動きや影響についても懇談予定です。

- 地域説明会・意見交換会**
- 10/11 羽幌（羽幌病院）
 - 10/12 網走（向陽ヶ丘病院）
 - 10/16 江差（高等看護学院）
 - 10/18 北見（北見病院）
 - 10/19 音更（緑ヶ丘病院）
 - 10/23 苫小牧（保健所）

募集中 社会保障マスター養成講座（4回）

1回目 **10月30日（火）人権とは何か 社会保障の原点を学ぶ**

北海道母子加算生存権裁判の弁護団長 内田信也弁護士を囲んで
18:00～20:00 場所 道民医連会館3階会議室 資料代 500円
申し込みは、早めをお願いします。

